

H29年看護部新任職員中央オリエンテーション実績

月日	研修テーマ	ねらい	参加数	評価	講師
4月6日(木)	接遇	社会人としての基本的な接遇を理解し、医療職として必要なマナーを身に着けることができる	33	医療職として相手の立場に立てることが、接遇であることを基本姿勢として学ぶことが出来た。	山端看護部次長
	リスクマネジメント② 医療安全推進室の役割と実際	医療安全関連の経緯、当院の医療安全推進体制について理解する	35	医療安全関連の経緯、当院の医療安全推進体制について学んだ。	辻本医療推進室部長
	リスクマネジメント③ 救急救命研修	救急救命に関わる対応を体験し、イメージを膨らませ、不測の事態に備えることができる	35	AED・報告の仕方について等、救急救命に関わる対応を演習を通して学んだ。	救急教育チーム
4月7日(金)	リスクマネジメント① 感染対策 スタンダードプリコーション	医療職として必要な感染対策の基本を理解する	34	演習としてスタンダードプリコーション、手洗いを実施し、実践につなげることができた 用具を使用し救急対応の実技を体験した。	田畑感染管理認定 看護師 ICTチーム
	看護必要度・日常生活機能評価	回復期リハビリテーション病棟入院料を理解する 日常生活機能評価の評価のB項目の評価の仕方を知る	34	回復期リハビリテーション病棟入院料についての理解を深めた。日常生活機能評価の評価のB項目の評価の仕方を学んだ	山端看護部次長
4月10日(月)	電子カルテ操作練習	基本的な電子カルテの操作方法が分る カルテ記載上の注意点がわかる	24	電子カルテの操作練習を行い、勤務場所で少しでも安心して使用できるように学習の場を設けた。基本操作を通して研修できたが、練習用電子カルテが2-3人に1台であり、十分体験できなかった	竹井補佐 高田補佐 徳永・村川 電子カルテ係
4月11日(火)	当院における記録の実際	看護記録について、基本的な知識が理解できる 当院の看護記録についての基本がわかる	25	記録の書き方、書くべきこと、記録の意義等、実際のカルテ記入例を通し学んだ。看護計画、フォーカスチャーチング演習報告の基本について学んだ。	小村補佐 三井記録委員
	報告って何をどうするの？	報告の基本について理解できる 実践場面での活用方法について理解できる 報告のツール(SBAR)がわかる	25	報告の基本である、報告・相談・連絡が理解でき、実践場面で活用できるように、SBARの視点を持って報告することを学んだ	
	日常生活の援助技術① 口腔ケア	リハビリテーション病院における口腔ケアの必要性がわかる	25	口腔ケアの実際を体験学習し、実施することの重要性を感じる事ができた	長畑補佐 森本・清水 NSTリンクナース
4月12日(水)	日常生活の援助技術③ おむつ・尿便器のあて方	排泄の介助が必要な必要な状態や疾患、障害を理解できる 演習を通し、実際がわかる	25	介助の必要な状態や疾患、障害を知る安全・安楽な介助方法を学び、演習を通して排泄の実際がわかった。	入江補佐 成瀬補佐 松下主任 吉谷主任 川上陽子
	看護技術③ 浣腸	導尿の介助が必要な状態や疾患、障害を理解できる 演習を通し、実際がわかる	25	シミュレーションモデルを使用し、具体的に浣腸の技術の習得を行った。	
	おむつ体験を話そう	紙おむつの中で排泄体験をし、感じた思いを共有し、排泄看護を考える機会とする。	25	グループワークで紙おむつの中で排泄体験を話すことで、感じた思いの共有と、今後の排泄看護を考える貴重な機会となった。	
	リハビリ看護の専門性を語る④ 皮膚排泄ケア	皮膚排泄設ケア看護について基本的な考え方が理解できる 当院における認定看護師の役割・活動がわかる	30	認定看護師の役割、皮膚排泄における看護の取り組み。褥瘡リスク、回診と除圧、スキンケア等事例交え学んだ。	

4月13日(木)	日常生活の援助技術② 更衣	更衣が必要な状態や疾患、障害を理解できる 演習を通し、実際がわかる	24	更衣が必要な状態や疾患、傷害を理解することが出来た。当院での基本的な更衣の介助方法がわかった。	入江補佐 繁田補佐 東主任
4月14日(金)	看護技術① 酸素吸入 吸引 血糖測定	吸引や酸素吸入、血糖測定が必要な状態や疾患、障害を理解できる 演習を通して技術の実際がわかる	25	気道分泌物、貯留物を除去して、気道の閉塞や呼吸困難を防ぐことを演習を通して学んだ。 血糖測定を実際に行い、患者体験ができて良かったとの意見があった。	谷口佳補佐 木澤主任 谷川主任 廣田主任
4月17日(月)	総合リハの生い立ちから現在	リハビリテーションの意義、リハ看護を考える機会とする	66	総合リハ開設から現在に至るまでの歴史とノーマライゼーションの視点での講演を聞き、何を大切にしないといけないかを考える機会となった。多職種からも多くの参加があった。	澤村 誠志 中央病院名誉 院長
4月18日(火)	日常生活の援助技術④ 体位変換・移動	体位変換、移乗移動が必要な状態や疾患、障害を理解できる ボディメカニクスの原理原則を理解し、応用することができる	25	基本的な体位変換の介助方法を理解することができた。 ボディメカニクスの原理・原則を理解し体位変換に応用することが出来た。	米分補佐 高瀬補佐 松本主査
4月19日(水)	リハビリ看護の専門性を語る③ ICFの考え方	ICFの基本的な考え方について理解できる 当院でのICFにおける看護師の役割についてわかる	27	健康と障害の見方・考え方、ノーマライゼーション、出来る事プラスの視点で考えることを事例を通して学んだ。	東回リハ看護師 認定コース受講者
	リハビリテーション看護の専門性を語る③ 脳卒中看護認定看護師	脳卒中看護について基本的な考え方が理解できる。当院における認定看護師の役割・活動がわかる。	27	リハビリ看護を実践する、スペシャリストとして脳卒中の病態から、様々な障害に対しての看護についての講義を聞き、リハ看護を肌で感じる事が出来た。	鈴木脳卒中看護 認定看護師
4月20日(木)	リハビリ看護の実際・ 先輩看護師から	先輩看護師の話聞くことで、看護師として働く自分がイメージできる 看護師として働くこと不安を解消させる	25	経験3～5年の先輩看護師が、就職時の思い、現在の成長、看護に実際に体験談として話した。すぐ身近な先輩も同じような思いで1年目を過ごし、現在生き生きと働いている話は安心感を与えることができたようだ。	渋谷看護師 徳永看護師 正井看護師
	思いを言葉にのせて ～こんな看護師になりたい！～	3週間の研修の学びを通して、これからの自分の看護を考えるきっかけとする。	25	グループワークで「こんな看護師になりたい」を模造紙に書き、決意表明できた。	森田補佐 田中補佐

平成29年新任職員臨床研修実績

5月10日	<診療・治療に関わる技術> 看護技術③ 採血	静脈採血の必要な状態や疾患、障害が理解できる。 真空採血ホルダーを使用した、静脈血採血の手順を理解でき、安全に実施できる	24	モデルの手を使用して採血手技を行った。医療廃棄の説明も行い、廃棄物の分別や方法も理解したと考える。また、技術には個人差があったため、各部署に戻り、OJTにて指導し、技術習得を目指す	田中補佐 入江補佐 高田補佐 竹井補佐
5月17日	<診療・治療に関わる技術> くすりの見方	安全確実に薬物療法を行うための知識。技術を持って与薬援助が出来る 当院での基本的な内服薬の与薬準備が出来る	21	当院での処方箋の見方、配薬車の取扱い、マニュアルに沿った確認方法を、実際に処方箋を見ながら実施した。すでに与薬準備業務を経験している看護師がいたが、自分の業務を振り返る機会となった。配薬ボックスに間違えた薬を入れていたが、マニュアルに沿って確認することで、間違いに気づくこともできていた。	東江補佐 入江補佐 高瀬補佐
	夜勤に向けての説明会	夜勤に向けて健康、安全、生活に及ぼす影響を知る	22	夜勤についての講義、仮眠室、保安室等夜勤に関わる場所を見学する。夜勤に向けての講義や院内の見学を通して夜勤の心構えや体調管理の必要性を理解することが出来た。	
5月31日	記録・電子カルテについて	当院での看護記録について理解できる フォーカスチャーティングの基本を理解し、状況に応じた記録の記載ができる	25	グループワークを通して、フォーカスチャーティングを基本とした記入方法について話し合いを行った。しかし、事例の文章を読み取ることが難しい職員もいて、研修の進み具合にグループで差がでた。準備時間を確保したことで、研修時間も2時間で十分にできた。	小村補佐 入江補佐
6月7日	<診療・治療に関わる技術> 静脈留置実施者へのチェック (既卒者・中途採用者対象)	安全に静脈留置針注射が実施できる		モデルの手を使用して模擬を行ったあと、研修生同志で実際に静脈留置を行った。テープの止め方など、現場で実践していることで困っていること、悩んでいることを表出し、解決する機会となった。	成瀬補佐 小村補佐
6月16日	医療機器の取り扱い (シリンジポンプ・輸液ポンプ)	輸液ポンプ・シリンジポンプの操作手順が理解でき実施できる	15	業者により輸液ポンプ、シリンジポンプの操作手順と注意点について講義を受け、輸液ポンプとシリンジポンプの操作を練習する。ポンプ使用時の看護について講義する。業者の講義が分かりやすかった。実際に全員が使用することが出来たので、より理解が深まったと思う。	業者主催 (テルモ(株)) 高田補佐 竹井補佐 高瀬補佐
7月3日	医療機器の取り扱い (モニター)	モニターを使用する目的を知り、操作方法がわかる	14	モニターの操作と注意点について講義を受け、モニターの操作を練習する。前年度から担当者が変更になっており、講義がメインとなってしまう、操作時間が短くなってしまった。そのため、限られた人しか操作できず、積極的な参加参加が必要であった。次年度は操作時間をメインにできるように内容の確認が必要である。	業者主催 (日本光電工業) 高田補佐
7月18日	<研修の振り返り・フォローアップ> 3か月の振り返り	看護師としての3ヶ月間を振り返る仲間との交流を通して、エンパワーする機会とする	18	3ヶ月を振り返り、嬉しかったこと、良かったこと、困ったことをグループワークで話し合い発表する。プリセプターへのメッセージカードを作成する。新卒者にとっては、3ヶ月間を振り返り思いを共有でき、研修のねらいは達成できた。既卒者にとっては経験年数によって研修に対する思いにばらつきが見られ、受講対象者を検討する必要がある。	入江補佐 阿部補佐
8月16日	<診療・治療に関わる技術> 薬剤について	薬剤部長の講義を通して、薬剤に対する知識を深める。 事例を通して、与薬の基本を再確認できる	19	講義:①医薬品の服用時間と方法、②薬の相互作用、③院内医薬品の取り扱いについて、④医療事故についてを学ぶ。グループワーク:間違いのおこりやすい事例を通して、与薬の基本を再確認する。講義に対し、活発な質疑応答があり、理解は十分できたと思われる。グループワークでは設問に不備があったため、間違いが見られていた。最近の学習者の傾向も踏まえ、十分な事前準備が必要であった。常用医薬品集について再度説明を実施、リフレクションから、普段あまり確認していないようであり、繰り返しの説明も必要であると感じた。	米田薬剤部長 上田補佐 東江補佐
9月6日	<日常生活援助に関する技術> 移乗移動介助技術	理学療法士による、移動移乗技術を実技を交えて学ぶ。 普段根拠なく行っている動作を、理論を交えて学ぶことで、実践に活かすことができる	20	講義の中に実習を組み込みながら行う。ベッド⇄車椅子移乗、ベッドからの起き上がり介助、スライディングボード・シートの使用を練習する。事前課題として、日常の看護の中で困っていることや不安に思っていること、知りたいことなどを提出してもらい、その内容を講義に取り入れてもらうことで、実践と結びつくことができた。実習を数回取り入れることで、「すぐに実践していきたい」「病棟でも活かしたい」という意見が多く、理学療法士からの学びは大きかった。	安田PT 田中補佐 成瀬補佐

9月20日	<看護職員として必要な基本姿勢と態度> 看護倫理	<ul style="list-style-type: none"> 看護倫理の概念(看護における倫理綱領)が理解できる。 看護実践のなかでの倫理的問題に気が付くことができる。 看護実践のなかで、患者の権利を守り、個を尊重した看護実践の方法が分かる。 	12	グループワークを行い、事前課題「自身の最近の勤務の中で患者を大切にできたと思ったこと。」「自身の最近の勤務の中で患者を大切にできなかったと思ったこと。」を共有できた。事前課題から事例を選び倫理原則で検討し、発表した。大半の職員が、学校で看護倫理について学んできているが、実際の事例からディスカッションすることで、より身近に感じる事が出来たのではないかと思われる。ただ、疾患に対する知識がまだ不十分であったため、議論が深まりにくかったようである。今後も同様の事が想定されるため、足りない情報を補えるファシリテーターの役割を担う必要がある	県立こども病院 小児看護専門看護師 栗林佑季先生 小村補佐 上田補佐
10月4日	<在宅支援> 退院調整 支援	退院調整・支援の実際がわかる 当院の退院支援看護師の役割がわかる	19	退院調整・支援の実際と当院の退院支援看護師の役割について学んだ。資料を読んだり、お互いに話し合ったりという参加型の講義で、意見交換も活発に行われた。退院調整支援を行うためには、入院時から患者に寄り添い、患者の背景を知る必要があることを伝えた。障害者として生きていかなければならない患者の心理を考えてみることで援助の必要性を見出すということを学んだ。	東江補佐
10月18日	<日常生活援助に関する技術> 摂食嚥下障害看護	摂食・嚥下障害について理解し、摂食・嚥下障害の看護について学ぶ	18	①摂食嚥下障害の基本・食事姿勢・嚥下評価について講義を受ける。②ベッド上食事体位・ポジショニング・ゼリー摂取介助のデモンストレーション後、グループで演習する。講義で摂食嚥下障害の基礎の講義、デモンストレーション後の演習であり、食事姿勢や摂取介助方法の根拠と共に技術を学ぶ事ができ、実践で役立つものとなった。新人が今まで気づけなかった視点を持つきっかけとなり、頸部聴診や介助方法のコツや患者心理の理解、経験することによる不安の解消や自信につながっていることがリフレクションからわかった。	講師： 鈴木脳卒中認定看護師 松尾脳卒中認定看護師 成瀬補佐
11月8日	<日常生活援助に関する技術> 褥瘡予防ケア・フットケア	フットケアの必要性を理解し、基本的なアセスメントやケアの方法が分かる	17	森本看護師より実際のフットケアについての講義、演習4東で実際に行っているケアの指導があり、講義内容も興味深く、熱意のある指導で、引き込まれるものであった。物品の紹介もあり、参加者の反応もよかった。来年度も継続していきたい。泡浴の紹介を行うなど新し情報提供も行われ有意義であった。	4東 フットケアチーム 高田補佐
11月22日	<症状・生体機能管理技術> シミュレーション研修	患者の訴える症状から必要な観察項目がわかり自分の判断でできる初期対応ができ、先輩看護師に報告ができる	13	整形系・内科系と2グループに分かれ低血糖と痙攣のシミュレーションのシナリオを作成し、シミュレーションを行った。体験後、全員に感想を述べてもらった。各グループで、実際に話す内容などを決めていくのに、苦労していた。実際発表に場では、しっかりと配役をこなし、基本となる観察視点や行動はできていた。	田中補佐 入江補佐 竹井補佐 阿部補佐
12月13日	<診療・治療に関わる技術> 静脈注射(留置針)実施者へのチェック	安全に静脈留置針注射が実施できる	15	DVD鑑賞により、当院でのマニュアルを理解し、実技・技術チェックリストを使用して技術確認を行った。マニュアルの講義を省いて研修を行なったため、各部署で再度、マニュアルと技術チェックリストの確認を行なった。成功体験できることを目指したが、研修生同志の穿刺では、血管の走行がわからず、穿刺することのみに集中し、一連の流れとしての指導ができなかった。針刺し事故1件あり、静脈留置針のキャップを外す際、誤って自身の指に刺してしまった。	田中補佐 小村補佐 阿部補佐
1月17日	<研修の振り返り・フォローアップ> 1年の振り返り	1年を振り返りを行い、リフレッシュして職場に戻る事ができる	21	①一年を振り返りまとめたケース集「あしあと」に目を通し「自分の目指す看護師像」を文章にする。 ②グループワークで「あしあと」の感想と「自分の目指す看護師像」を共有し、なりたい看護師像をまとめる。 ③一年の振り返りDVD鑑賞する。 ④師長からメッセージカードをプレゼントする。「あしあと」をまとめることで、業務としてだけでなく、看護として振り返ることができた。また、同期と経験を共有することで、他者の頑張りや悩みを共有できる機会となり一年目の看護観を確認するのに役立っている。	田中補佐 森田補佐

1 看護部新任職員中央オリエンテーション

月日	研修テーマ	ねらい	参加数	評価	講師
4月6日(木)	接遇	社会人としての基本的な接遇を理解し、医療職として必要なマナーを身に着けることができる	33	医療職として相手の立場に立てることが、接遇であることを基本姿勢として学ぶことが出来た。	山端看護部次長
	リスクマネジメント② 医療安全推進室の役割と実際	医療安全関連の経緯、当院の医療安全推進体制について理解する	35	医療安全関連の経緯、当院の医療安全推進体制について学んだ。	辻本医療推進室部長
	リスクマネジメント③ 救急救命研修	救急救命に関わる対応を体験し、イメージを膨らませ、不測の事態に備えることができる	35	AED・報告の仕方について等、救急救命に関わる対応を演習を通して学んだ。	救急教育チーム
4月7日(金)	リスクマネジメント① 感染対策 スタンダードプリコーション	医療職として必要な感染対策の基本を理解する	34	演習としてスタンダードプリコーション、手洗いを実施し、実践につなげることができた 器具を使用し救急対応の実技を体験した。	田畑感染管理認定 看護師 ICTチーム
	看護必要度・日常生活機能評価	回復期リハビリテーション病棟入院料を理解する 日常生活機能評価の評価のB項目の評価の仕方を知る	34	回復期リハビリテーション病棟入院料についての理解を深めた。日常生活機能評価の評価のB項目の評価の仕方を知った	山端看護部次長
4月10日(月)	電子カルテ操作練習	基本的な電子カルテの操作方法が分る カルテ記載上の注意点がわかる	24	電子カルテの操作練習を行い、勤務場所で少しでも安心して使用できるように学習の場を設けた。基本操作を通して研修できたが、練習用電子カルテが2-3人に1台であり、十分体験できなかった	竹井補佐 高田補佐 徳永・村川 電子カルテ係
4月11日(火)	当院における記録の実際	看護記録について、基本的な知識が理解できる 当院の看護記録についての基本がわかる	25	記録の書き方、書くべきこと、記録の意義等、実際のカルテ記入例を通し学んだ。看護計画、フォーカスチャーチング演習報告の基本について学んだ。	小村補佐 三井記録委員
	報告って何をどうするの？	報告の基本について理解できる 実践場面での活用方法について理解できる 報告のツール(SBAR)がわかる	25	報告の基本である、報告・相談・連絡が理解でき、実践場面で活用できるように、SBARの視点を持って報告することを学んだ	
	日常生活の援助技術① 口腔ケア	リハビリテーション病院における口腔ケアの必要性がわかる	25	口腔ケアの実際を体験学習し、実施することの重要性を感じる事ができた	
4月12日(水)	日常生活の援助技術③ おむつ・尿便器のあて方	排泄の介助が必要な必要な状態や疾患、障害を理解できる 演習を通し、実際にわかる	25	介助の必要な状態や疾患、障害を知る安全・安楽な介助方法を学び、演習を通して排泄の実際がわかった。	入江補佐 成瀬補佐 松下主任 吉谷主任 川上陽子
	看護技術③ 浣腸	導尿の介助が必要な状態や疾患、障害を理解できる 演習を通し、実際にわかる	25	シミュレーションモデルを使用し、具体的に浣腸の技術の習得を行った。	
	おむつ体験を話そう	紙おむつの中で排泄体験をし、感じた思いを共有し、排泄看護を考える機会とする。	25	グループワークで紙おむつの中で排泄体験を話すことで、感じた思いの共有と、今後の排泄看護を考える貴重な機会となった。	
	リハビリ看護の専門性を語る④ 皮膚排泄ケア	皮膚排泄設ケア看護について基本的な考え方が理解できる 当院における認定看護師の役割・活動がわかる	30	認定看護師の役割、皮膚排泄における看護の取り組み。褥瘡リスク、回診と除圧、スキンケア等事例交え学んだ。	
4月13日(木)	日常生活の援助技術② 更衣	更衣が必要な状態や疾患、障害を理解できる 演習を通し、実際にわかる	24	更衣が必要な状態や疾患、傷害を理解することが出来た。当院での基本的な更衣の介助方法がわかった。	入江補佐 繁田補佐 東主任
4月14日(金)	看護技術① 酸素吸入 吸引 血糖測定	吸引や酸素吸入、血糖測定が必要な状態や疾患、障害を理解できる 演習を通して技術の実際がわかる	25	気道分泌物、貯留物を除去して、気道の閉塞や呼吸困難を防ぐことを演習を通して学んだ。 血糖測定を実際に行い、患者体験ができて良かったとの意見があった。	谷口佳補佐 木澤主任 谷川主任 廣田主任
4月17日(月)	総合リハの生い立ちから現在	リハビリテーションの意義、リハ看護を考える機会とする	66	総合リハ開設から現在に至るまでの歴史とノーマライゼーションの視点での講演を聞き、何を大切にしないといけないかを考える機会となった。多職種からも多くの参加があった。	澤村 誠志 中央病院名誉 院長
4月18日(火)	日常生活の援助技術④ 体位変換・移動	体位変換、移乗移動が必要な状態や疾患、障害を理解できる ボディメカニクスの原理原則を理解し、応用することができる	25	基本的な体位変換の介助方法を理解することができた。 ボディメカニクスの原理・原則を理解し体位変換に応用することが出来た。	米分補佐 高瀬補佐 松本主査
4月19日(水)	リハビリ看護の専門性を語る③ ICFの考え方	ICFの基本的な考え方について理解できる 当院でのICFにおける看護師の役割についてわかる	27	健康と障害の見方・考え方、ノーマライゼーション、出来る事プラスの視点で考えることを事例を通して学んだ。	東回りハ看護師 認定コース受講者
	リハビリテーション看護の専門性を語る③ 脳卒中看護認定看護師	脳卒中看護について基本的な考え方が理解できる。当院における認定看護師の役割・活動がわかる。	27	リハビリ看護を実践する、スペシャリストとして脳卒中の病態から、様々な障害に対しての看護についての講義を聞き、リハ看護を肌で感じる事が出来た。	鈴木脳卒中看護 認定看護師

4月20日(木)	リハビリ看護の実際・先輩看護師から	先輩看護師の話聞くことで、看護師として働く自分がイメージできる看護師として働くことへの不安を解消させる	25	経験3～5年の先輩看護師が、就職時の思い、現在の成長、看護に実際に体験談として話した。すぐ身近な先輩も同じような思いで1年目を過ごし、現在生き生きと働いている話は安心感を与えることができたようだ。	渋谷看護師 徳永看護師 正井看護師
	思いを言葉にのせて～こんな看護師になりたい！～	3週間の研修の学びを通して、これからの自分の看護を考えるきっかけとする。	25	グループワークで「こんな看護師になりたい」を模造紙に書き、決意表明できた。	森田補佐 田中補佐

2 新任職員臨床研修

5月10日	<診療・治療に関わる技術> 看護技術③ 採血	静脈採血の必要な状態や疾患、障害が理解できる。技術を持って与薬援助が出来る真空採血ホルダーを使用した、静脈血採血の手順を理解でき、安全に実施できる	24	モデルの手を使用して採血手技を行った。医療廃棄の説明も行い、廃棄物の分別や方法も理解したと考える。また、技術には個人差があったため、各部署に戻り、OJTにて指導し、技術習得を目指す	田中補佐 入江補佐 高田補佐 竹井補佐
5月17日	<診療・治療に関わる技術> くすりの見方	安全確実に薬物療法を行うための知識。技術を持って与薬援助が出来る当院での基本的な内服薬の与薬準備が出来る	21	当院での処方箋の見方、配薬車の取扱い、マニュアルに沿った確認方法を、実際に処方箋を見ながら実施した。すでに与薬準備業務を経験している看護師がいたが、自分の業務を振り返る機会となった。配薬ボックスに間違えた薬を入れていたが、マニュアルに沿って確認することで、間違いに気づくこともできていた。	東江補佐 入江補佐 高瀬補佐
	夜勤に向けての説明会	夜勤に向けて健康、安全、生活に及ぼす影響を知る	22	夜勤についての講義、仮眠室、保安室等夜勤に関わる場所を見学する。夜勤に向けての講義や院内の見学を通して夜勤の心構えや体調管理の必要性を理解することが出来た。	
5月31日	記録・電子カルテについて	当院での看護記録について理解できるフォーカスチャーティングの基本を理解し、状況に応じた記録の記載ができる	25	グループワークを通して、フォーカスチャーティングを基本とした記入方法について話し合いを行った。しかし、事例の文章を読み取ることが難しい職員もいて、研修の進み具合にグループで差があった。準備時間を確保したことで、研修時間も2時間で十分にできた。	小村補佐 入江補佐
6月7日	<診療・治療に関わる技術> 静脈留置実施者へのチェック (既卒者・中途採用者対象)	安全に静脈留置針注射が実施できる		モデルの手を使用して模擬を行ったあと、研修生同志で実際に静脈留置を行った。テープの止め方など、現場で実践していることで困っていること、悩んでいることを表出し、解決する機会となった。	成瀬補佐 小村補佐
6月16日	医療機器の取り扱い (シリンジポンプ・輸液ポンプ)	輸液ポンプ・シリンジポンプの操作手順が理解でき実施できる	15	業者により輸液ポンプ、シリンジポンプの操作手順と注意点について講義を受け、輸液ポンプとシリンジポンプの操作を練習する。ポンプ使用時の看護について講義する。業者の講義が分かりやすかった。実際に全員が使用することが出来たので、より理解が深まったと思う。	業者主催 (テルモ(株)) 高田補佐 竹井補佐 高瀬補佐
7月3日	医療機器の取り扱い (モニター)	モニターを使用する目的を知り、操作方法がわかる	14	モニターの操作と注意点について講義を受け、モニターの操作を練習する。前年度から担当者が変更になっており、講義がメインとなってしまう、操作時間が短くなってしまった。そのため、限られた人しか操作できず、積極的な参加参加が必要であった。次年度は操作時間をメインにできるように内容の確認が必要である。	業者主催 (日本光電工業) 高田補佐
7月18日	<研修の振り返り・フォローアップ> 3か月の振り返り	看護師としての3ヶ月間を振り返る仲間との交流を通して、エンパワーする機会とする	18	3ヶ月を振り返り、嬉しかったこと、良かったこと、困ったことをグループワークで話し合い発表する。プリセプターへのメッセージカードを作成する。新卒者にとっては、3ヶ月間を振り返り思いを共有でき、研修のねらいは達成できた。既卒者にとっては経験年数によって研修に対する思いにばらつきが見られ、受講対象者を検討する必要がある。	入江補佐 阿部補佐
8月16日	<診療・治療に関わる技術> 薬剤について	薬剤部長の講義を通して、薬剤に対する知識を深める。事例を通して、与薬の基本を再確認できる	19	講義:①医薬品の服用時間と方法、②薬の相互作用、③院内医薬品の取り扱いについて、④医療事故についてを学ぶ。グループワーク:間違いのおこりやすい事例を通して、与薬の基本を再確認する。講義に対し、活発な質疑応答があり、理解は十分できたと思われる。グループワークでは設問に不備があったため、間違いが見られていた。最近の学習者の傾向も踏まえ、十分な事前準備が必要であった。常用医薬品集について再度説明を実施、リフレクションから、普段あまり確認していないようであり、繰り返しの説明も必要であると感じた。	米田薬剤部長 上田補佐 東江補佐

9月6日	<日常生活援助に関する技術> 移乗移動介助技術	理学療法士による、移動移乗技術を 実技を交えて学ぶ。 普段根柢なく行っている動作を、理 論を交えて学ぶことで、実践に活か すことができる	20	講義の中に実習を組み込みながら行う。ベッド⇄ 車椅子移乗、ベッドからの起き上がり介助、スライ ディングボード・シートの使用を練習する。事前課 題として、日常の看護の中で困っていることや不安 に思っていること、知りたいことなどを提出してもら い、その内容を講義に取り入れてもらうことで、実 践と結びつけることができた。実習を数回取り入れる ことで、「すぐに実践していきたい」「病棟でも活か したい」という意見が多く、理学療法士からの学び は大きかった。	安田PT 田中補佐 成瀬補佐
9月20日	<看護職員として必要な基 本姿勢と態度> 看護倫理	・看護倫理の概念(看護における倫 理綱領)が理解できる。 ・看護実践のなかでの倫理的問題に 気が付くことができる。 ・看護実践のなかで、患者の権利を 守り、個を尊重した看護実践の方法 が分かる。	12	グループワークを行い、事前課題「自身の最近の 勤務の中で患者を大切にできたと思ったこと。」 「自身の最近の勤務の中で患者を大切にできな かったと思ったこと。」を共有できた。事前課題から 事例を選び倫理原則で検討し、発表した。大半の 職員が、学校で看護倫理について学んできている が、実際の事例からディスカッションすることで、よ り身近に感じることが出来たのではないかとされる。 ただ、疾患に対する知識がまだ不十分であつたため、 議論が深まりにくかったようである。今後も 同様の事が想定されるため、足りない情報を補え るファシリテーターの役割を担う必要がある	県立こども病院 小児看護専門看護 師 栗林佑季先生 小村補佐 上田補佐
10月4日	<在宅支援> 退院調整 支援	退院調整・支援の実際がわかる 当院の退院支援看護師の役割がわ かる	19	退院調整・支援の実際と当院の退院支援看護師 の役割について学んだ。資料を読んだり、お互 いに話し合ったりという参加型の講義で、意見交換 も活発に行われた。 退院調整支援を行うためには、入院時から患者に 寄り添い、患者の背景を知る必要があることを伝え た。障害者として生きていかなければならない患者 の心理を考えてみることで援助の必要性を見出す ということを学んだ。	東江補佐
10月18日	<日常生活援助に関する技術> 摂食嚥下障害看護	摂食・嚥下障害について理解し、摂 食・嚥下障害の看護について学ぶ	18	①摂食嚥下障害の基本・食事姿勢・嚥下評価につ いて講義を受ける。②ベッド上食事体位・ポジシ ョニング・ゼリー摂取介助のデモンストレーション後、 グループで演習する。講義で摂食嚥下障害の基 礎の講義、デモンストレーション後の演習であり、 食事姿勢や摂取介助方法の根拠と共に技術を学 ぶ事ができ、実践で役立つものとなった。新人が 今まで気づかなかった視点を持つきっかけとなり、 頸部聴診や介助方法のコツや患者心理の理解、 経験することによる不安の解消や自信につながっ ていることがリフレクションからわかった。	講師： 鈴木脳卒中認定看 護師 松尾脳卒中認定看 護師 成瀬補佐
11月8日	<日常生活援助に関する技術> 褥瘡予防ケア・フットケア	フットケアの必要性を理解し、基本 的なアセスメントやケアの方法が分かる	17	森本看護師より実際のフットケアについての講義、 演習4東で実際に行っているケアの指導があり、講 義内容も興味深く、熱意のある指導で、引き込ま れるものであった。物品の紹介もあり、参加者の反 応もよかった。来年度も継続していきたい。泡浴の 紹介を行うなど新し情報提供も行われ有意義であ った。	4東 フットケアチーム 高田補佐
11月22日	<症状・生体機能管理技術> シミュレーション研修	患者の訴える症状から必要な観察 項目がわかり自分の判断のできる初期 対応ができ、先輩看護師に報告がで きる	13	整形系・内科系と2グループに分かれ低血糖と痙 攣のシミュレーションのシナリオを作成し、シミュ レーションを行った。体験後、全員に感想を述べて もらった。各グループで、実際に話す内容などを 決めていくのに、苦労していた。実際発表に場 では、しっかりと配役をこなし、基本となる観察視点や 行動はできていた。	田中補佐 入江補佐 竹井補佐 阿部補佐
12月13日	<診療・治療に関わる技術> 静脈注射(留置針)実施者 へのチェック	安全に静脈留置針注射が実施できる	15	DVD鑑賞により、当院でのマニュアルを理解し、実 技・技術チェックリストを使用して技術確認を行っ た。 マニュアルの講義を省いて研修を行なったため、 各部署で再度、マニュアルと技術チェックリストの 確認を行なった。成功体験できることを目指した が、研修生同志の穿刺では、血管の走行がわから ず、穿刺することのみに集中し、一連の流れとして の指導ができなかった。 針刺し事故1件あり、静脈留置針のキャップを外す 際、誤って自身の指に刺してしまった。	田中補佐 小村補佐 阿部補佐

1月17日	<研修の振り返り・フォローアップ> 1年の振り返り	1年を振り返りを行い、リフレッシュして職場に戻る事ができる	21	①一年を振り返りまとめたケース集「あしあと」に目を通し「自分の目指す看護師像」を文章にする。 ②グループワークで「あしあと」の感想と「自分の目指す看護師像」を共有し、なりたい看護師像をまとめる。 ③一年の振り返りDVD鑑賞する。 ④師長からメッセージカードをプレゼントする。「あしあと」をまとめることで、業務としてだけでなく、看護として振り返ることができた。また、同期と経験を共有することで、他者の頑張りや悩みを共有できる機会となり一年目の看護観を確認するのに役立っている。	田中補佐 森田補佐
-------	------------------------------	-------------------------------	----	--	--------------

3 プリセプター研修

平成29年 2月22日	プリセプター研修① 育成・支援	実地指導者の概念を理解する新人看護師の特性を理解するそれぞれの立場における新人教育の役割を理解し、チームの一員として行動できる	10	講義に対して理解が十分に得られ、現場での活用にも繋げることが出来るとアンケート結果にあり、記述にもプリセプターに対して意欲的な声がみられ、目標は達成できた。また、西垣Ns自身が若く、プリセプターに近い存在であったことが受講者にも講義の内容が伝わりやすかったのではないかと。時間調整は、講義に合わせてGWの時間を適宜変更し、時間内に終えることができた。来年度は、日誌等の記載の注意点も加える。	高田補佐 森田補佐 西垣看護師 (実地指導者研修受講者)
8月3日	プリセプター研修② フォローアップ研修	他部署との交流の中でリフレッシュができる 指導上の悩みや不安を共有し解決に向けて前向きに考えることが出来る	15	3ヶ月の指導を振り返り「うまくいったこと」「困っていること」についてグループワークを行い、新任職員指導における課題の共有と解決策の検討を行った。グループワークを通して、他部署と意見交換を行い、情報を共有できる研修であった。また、自身の頑張りを感じる事で、今後の指導と解決に向けて前向きに考える機会となった。	竹井補佐 高瀬補佐 西垣看護師 (実地指導者研修受講者)
平成30年 2月14日	プリセプター研修③ 振り返り・評価	プリセプターとしての指導を振り返り次年度教育の課題を明確にする	10	西垣看護師の振り返りと評価の講義。指導の振り返りを行うことが重要で、自分の目標を改めて振り返る機会になった。2年名以降も成長を見守る姿勢を持つことを意識してもらった。最後に、こんなプリセプターになれましたということを模造紙に書いた。照れながらも、自分自身を認めることが出来有意義な時間となった。	入江補佐 阿部補佐 西垣看護師 (実地指導者研修受講者)

4 再就業支援研修

11月1日	再就業支援研修	看護師の再就業支援の実施	3	採血、点滴、注射(静脈留置針)、血糖測定 病院見学摂食嚥下障害看護、採血、点滴、注射(静脈留置針)、について行う。3名であったこともあり、時間を十分に活用できた。	小村補佐 高田補佐 東江補佐
-------	---------	--------------	---	---	----------------------